第７－５号

耕人

『耕人塾』
塾長　木村　民男
平成30年9月15日（土）

「日本の伝統文化」について

「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の実践活動や宿泊研修で大きな成果を残し、第７期『耕人塾』の活動も後半に入ります。本日の第10回『耕人塾』は茶道の体験ですが、それは『耕人塾』の指導指針の一つである「日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる」に基づいています。そこで、今回は「日本の伝統文化」について書きます。

25年ほど前のことになりますが､カナダのトロントにいる弟が主宰している剣道場の15周年記念大会に審判長として招待されました。カナダやアメリカ各地から約20チーム150人の選手が集い、盛大な大会になりました。会場には鯉幟(こいのぼり)や鎧甲(よろいかぶと)が飾られ、日本語で書かれた応援旗もあり、剣道大会にふさわしい雰囲気に包まれていました。開会式にはミスサガ市の市長さんもお出でになり、「日本の文化について大変興味があり、木村さん（弟のこと）はこの市のヒーローである」というユーモアに富んだ祝辞は会場を和やかにしてくれました。開会式の後、私と弟で日本剣道形を演武したのですが、選手は全員正座をし、凛とした空気の中で演武をすることができ、日本の伝統文化である剣道の魅力の一端を伝えることができました。

大会後に弟のレストランで記念パーティが開催され、大会に出場したほとんどの人が参加してくれました。多くの人と懇親を深める中で、「どうして剣道をしているのですか？」と質問してみました。20代から60代と年代の幅はあったのですが､「日本の伝統文化にあこがれたから｣｢剣道はやればやるほど奥が深いから｣｢稽古では相手を敬い、終わった後の爽快感がすばらしいから｣｢稽古着姿や礼儀作法がかっこうよいから｣｢力が弱い人でも強くなれるから｣｢60歳を過ぎても若い人と一緒にやれるから｣などの感想を聞くことができました。

大会前日にはグラハムさんという政府の高官に招待され、自宅を訪問する機会がありました。驚いたのは案内された地下室が畳敷きの和室なのです。しかも床の間には掛け軸や日本刀が掛けてあり、お花まで生けてあるのです。その上、着物を着た奥様が正座をして陶器の急須(きゅうす)でお茶を入れてくれたのです。懇談の中でグラハムさんに「どうして日本文化を取り入れているのですか？」と聞いてみました。グラハムさんは､**「日本の文化は自然を大切にし、自然の中で生かされているという謙虚さと他を思いやる心があり、この部屋にいるだけで安らぎを感じます。日本文化は謙虚さと思いやりの文化で心がとても落ち着きます。」**と、答えてくれたのです。

世界には多くの国があり、それぞれの文化があります。その国々の文化を理解し、良さを認め合うには、まず自分の国の文化を理解し、少しでも身に付けることが大切だと思います。本日の茶道の体験や石田邦子先生のお話から日本の伝統文化の良さを学んでほしいと思います。そして、その学びを日常生活の中で一つでも実践してほしいと願っています。それが、国際社会の中で生きていく上できっと役に立つときが来ると思っています。

「フランス体験談」宮本夢与さんのインタビューから

6/9～6/20までサポートアワーキッズという団体で中・高校生9名と添乗員1名の10名でフランスを訪問しました。はじめに訪れたまちはシャエーニュという小さな村で、村長さんはじめ多くの村の人たちが温かく迎えてくれました。そこで震災のプレゼンをしたり日本の文化を伝えたりしたのですがとても真剣に聞いてくれました。日本の文化では、急須(きゅうす)でお茶を入れたのですが、『耕人塾』で茶道の体験をしているので落ち着いて丁寧な仕草で入れることができました。｢沸かしたお湯を一旦冷ましてから入れる心遣いや細かい仕草がすてきだ｣という感想をいただきました。改めて日本の文化を身に付けておくことが大切だということに気付きました。